

平成18年11月16日

鹿島鉄道対策協議会会長 横田凱夫 殿

かしてつ応援団団長 鬼沢友里
(鹿島鉄道沿線中高生徒会連絡会)

鹿島鉄道の存続問題について 説明会と公聴会を開催して下さい

来年4月1日での廃止届が出された今、鹿島鉄道は廃線の危機に直面しています。鉄道の存続は、ひとえに鹿島鉄道対策協議会の結論にかかっています。

鹿島鉄道は83年前の大正11年に地域の方々の出資で会社が設立されてから、公共交通機関として地域の発展に大いに貢献し、人々の生活に欠かせない存在となってきました。年々乗客が減少しているとはいえ、年間およそ80万人、毎日2千人以上が利用しています。私たち中学・高校生が毎日通学できるのも、鹿島鉄道のおかげです。

鹿島鉄道存続のために、私たち「かしてつ応援団」も地域の方々と共に、4年前から「未来へ走れ！鹿島鉄道」を合い言葉にして、地域で開催されるイベントでの宣伝活動、駅のクリーン作戦やデコレーション、鹿島鉄道への提案活動などに取り組んできました。「鹿島鉄道応援募金」の呼びかけには300万円もの寄付が集まり、ラッピング列車の運行、夏休み限定の中高生向け500円フリーきっぷの販売などを行うことができました。また8月27日の「かしてつ祭り」には4千人が集まるなど人々の関心も高くなってきています。

5年間の公的支援の期限切れ（平成19年3月）を前に、再び存続問題に直面するのは明らかでしたので、私たち「かしてつ応援団」は鹿島鉄道存続のために「公的支援の継続と新たな再生計画の作成」を鹿島鉄道対策協議会に求める署名運動を昨年10月から展開し、5月11日に1万6553筆を提出しました。署名活動の中では「なくなったらどこへもいけなくなる」「通学できなくなる」「地域の財産だから残したい」など存続を望む声が多く寄せられました。

私たちは地域の公共交通の維持・発展に責任を持っている茨城県と沿線4市でつくる「鹿島鉄道対策協議会」にあらためて公的支援継続を訴えます。また、「対策協議会」が5ヶ月以上も開催されず、どのような検討がなされたかもよくわかりませんので、次の事を要望します。回答をお願いします。

《 要望事項 》

- 1、 11月19日の鹿島鉄道対策協議会の結果はもちろん、これまでの検討状況なども結論にかかわらず説明して下さい。
- 2、 もしも「支援打ち切り」という結論を出した場合は、代替交通機関の運行などについて、利用者や住民などの意見を聴く場をつくって下さい。